

同窓会会報

高知県立大学看護学部

第25号

令和4年10月31日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



ごあいさつ

同窓会副会長

朝夕肌寒く感じる季節になりました。同窓会の皆様、お元気で過ごしてはいかがでしょうか。オミクロン株の大流行、ロシアのウクライナ軍事侵攻、大雨、台風、猛暑・・・と私たちの命と健康を脅かす出来事や状況が後を絶えません。一方で“3年ぶりに行動制限なし”とコロナ感染症に伴う規制緩和の兆しがみえ、新たなステージがそこまで来ていると期待を膨らませています。この3年、ご自身の健康を顧みず最前線で看護専門職者として活動されている皆様、それぞれのお立場で支援活動に携わっている同窓生の皆様に敬意と感謝の気持ちをお伝えいたします。

大学では、感染予防対策に徹底して取り組み、対面授業を基本としてまいりました。少しずつですが学生間、学生と教職員の交流・コミュニケーションの日常性、笑顔が戻ってきています。コロナ禍、急速に進展したICTへの対応として教育機器の整備や教材の充実、電子テキスト導入等、新たな教育方法の展開や工夫を継続して、豊かな学びや学生生活が送れるように取り組んでおります。学生は同窓会の皆様や地域の看護職の方々のご支援を頂き、学部・大学院とも実習・研究において、感染状況や実体験の少なさに不安がある中でも、臨地で実践・研究能力を身につけられるよう切磋琢磨しています。様々なご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

7月16日に第48回高知女子大学看護学会がオンライン開催され、松下博宣先生(東京情報大学)に「看護におけるイノベーション～遊び、まじめ、アイデアの異界越境から～」の基調講演を頂き、ワークショップにおいて卒業生や修了生が話題提供者、コーディネーターとなって、参加者の皆様による活発な意見交換が行われました。例年、同日に開催していました看護学部同窓会総会と懇親会は、残念ながら今年も中止させて頂きました。翌17日には、看護学部同窓会大学院部会の「看護開発研究会」をオンライン開催することができました。第1部は、「博士論文を基盤にした知の発展と循環」をテーマに、岩本真紀氏(博士11期生)、越智百枝氏(博士6期生)、藤田冬子氏(博士5期生)によるシンポジウムを行いました。第2部は、「博士論文における研究方法の開発ー研究上の困難な課題と工夫」について、青木早苗氏(博士15期生)と伏見木綿子氏(DNGL4期生)による発表・討議を行い、参加者が互いに学びあうことができました。看護学のDNAを伝承し、同窓会のネットワークの拡張・深化を進めていく活動もさらに充実させていければと思います。来年こそは、同窓生の皆様と“高知”で開催される看護学部同窓会総会でお会いできることを切に願っております。



主な内容

- ①同窓会会長ごあいさつ
- ②令和4年度同窓会総会報告
- ③第48回高知女子大学看護学会の報告
- ④看護開発研究会
- ⑤ようこそ先輩！
- ⑥同窓会による学生・卒業生生活支援
- ⑦先輩の職場は今
- ⑧看護学部は今

令和4年度 同窓会総会報告

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大防止と会員の皆様の健康と安全面への配慮から、令和4年度同窓会総会の対面での開催を中止し、文書（議決書）送付による総会とし、議案賛否のお返事をいただく形としました。その結果のご報告を致します。下記の3点の審議事項につきまして、賛成多数にて、承認いただきました。審議などへのご協力、誠にありがとうございました。

- ### 議事次第
- 1) 報告事項
 - (1) 令和3年度活動報告
 - (2) 令和3年度決算報告
 - (3) 令和3年度会計監査報告
 - 2) 審議事項
 - (1) 令和4年度活動計画案
 - (2) 令和4年度予算案
 - (3) 令和4年度同窓会役員について

令和3年度事業報告

1. 会議
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催（高知女子大学看護学会との共催）
 - 2) 懇親会 中止
 - 3) 会報発行
 - 4) 学生支援、同窓生活動支援
 - 5) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 6) 緊急奨学金貸与および給付型特別奨学金

令和4年度活動計画

1. 会議
 - 1) 総会の開催
 - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
 - 1) 講演会の開催（高知女子大学看護学会と共催）
 - 2) 懇親会 ⇒開催中止
 - 3) 会報発行
 - 4) 高知女子大学看護学会への活動支援
 - 5) 学生及び同窓生活動への支援
 - 6) 給付型特別奨学金の給付
 - 7) 緊急奨学金貸与
 - 8) ネットワーク強化

令和3年度 会計報告

令和3年度 高知県立大学看護学部同窓会決算報告
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部				
費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	13,508,987	13,508,987	0	
令和3年度終身会費	1,575,000	1,500,000	△75,000	令和4年度学費減額分の35,822名(88.8%) 前年度大学別入会(既入会)者数(19)名、新規入会(29)名、14名(6.4%)増減 前年度卒業者の卒業生・大学院生・4名
寄付金	200,000	246,000	46,000	延べ24名
奨学金返済	250,000	250,000	0	
利息	80	64	4	
合計	15,534,047	15,505,051	△28,996	

支出の部				
費目	予算額	決算額	差引	備考
会議費	30,000	0	30,000	役員会等
同窓会会報発行費	440,000	440,000	0	会報発行2回
高知女子大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	0	0	0	令和3年度同窓会総会・懇親会運営方法の変更
学生および同窓生活動支援費	600,000	286,380	313,620	1件20万円以内 日本シミュレーション学会抄録広告費 ¥22,000 2回生から入会卒業生支援 ¥88,880 4回生卒業生記念品 ¥197,500
緊急奨学金貸与	535,800	0	535,800	
給付型特別奨学金費	3,000,000	300,000	2,700,000	令和3年度のみ予算 1件あたり10万円 4回生2名、大学院生1名
小計	4,905,800	1,326,380	3,579,420	
役員費	370,000	378,119	△8,119	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費等
印刷費	200,000	100,540	99,460	封筒印刷、会議録取り起し
消耗品費	250,000	124,190	125,810	事務用品、小型カメラ、A4用紙、宛名シール等
雑費	200,000	80,300	119,700	名簿管理、蔵書整理、書類発送に関するアルバイト料等
小計	1,020,000	683,149	336,851	
予備費	9,608,247	15,000	9,593,247	大学院生入会費2名(1名1名)
合計	15,534,047	2,024,529	13,509,518	

令和4年度への繰り越し金=収入の決算額 15,505,051円 - 支出の決算額 2,024,529円 = 13,480,522円

監査報告書
高知県立大学看護学部同窓会会長 様

監査期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

監査結果 証憑書類並びに諸帳簿を資料として監査を実施した結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和4年6月2日
会計監査

野田真由美

令和3年度 高知県立大学看護学部同窓会決算報告
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

収入の部				
費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	13,508,987	13,508,987	0	
令和3年度終身会費	1,575,000	1,500,000	△75,000	令和4年度学費減額分の35,822名(88.8%) 前年度大学別入会(既入会)者数(19)名、新規入会(29)名、14名(6.4%)増減 前年度卒業者の卒業生・大学院生・4名
寄付金	200,000	246,000	46,000	延べ24名
奨学金返済	250,000	250,000	0	
利息	80	64	4	
合計	15,534,047	15,505,051	△28,996	

支出の部				
費目	予算額	決算額	差引	備考
会議費	30,000	0	30,000	役員会等
同窓会会報発行費	440,000	440,000	0	会報発行2回
高知女子大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
同窓会総会・懇親会運営費	0	0	0	令和3年度同窓会総会・懇親会運営方法の変更
学生および同窓生活動支援費	600,000	286,380	313,620	1件20万円以内 日本シミュレーション学会抄録広告費 ¥22,000 2回生から入会卒業生支援 ¥88,880 4回生卒業生記念品 ¥197,500
緊急奨学金貸与	535,800	0	535,800	
給付型特別奨学金費	3,000,000	300,000	2,700,000	令和3年度のみ予算 1件あたり10万円 4回生2名、大学院生1名
小計	4,905,800	1,326,380	3,579,420	
役員費	370,000	378,119	△8,119	郵送費、切手、はがき代、ホームページ管理費等
印刷費	200,000	100,540	99,460	封筒印刷、会議録取り起し
消耗品費	250,000	124,190	125,810	事務用品、小型カメラ、A4用紙、宛名シール等
雑費	200,000	80,300	119,700	名簿管理、蔵書整理、書類発送に関するアルバイト料等
小計	1,020,000	683,149	336,851	
予備費	9,608,247	15,000	9,593,247	大学院生入会費2名(1名1名)
合計	15,534,047	2,024,529	13,509,518	

令和4年度への繰り越し金=収入の決算額 15,505,051円 - 支出の決算額 2,024,529円 = 13,480,522円

監査報告書
高知県立大学看護学部同窓会会長 様

監査期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日

監査結果 証憑書類並びに諸帳簿を資料として監査を実施した結果、正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和4年6月30日
会計監査

矢野智恵

令和4年度 予算

令和4年度 高知県立大学看護学部同窓会予算案 (令和4年 4月 1日～令和5年 3月 31日)

収入の部

費目	予算額	備考
前年度繰り越し	13,478,522	令和4年度在学生(学部、大学院)の終身会費を含む
令和4年度会費	1,500,000	15,000円×100名=1,500,000円 学部生:80名 大学院生:20名(博士前期課程17名、博士後期課程3名)
寄付金	200,000	1口1,000円×200口
奨学金返済	0	
利息	65	
収入合計	15,178,587	

支出の部

費目	予算額	備考	
事業費	会議費	30,000	役員会等
	同窓会会報発行費	440,000	会報発行2回
	高知女子大学看護学会支援費	300,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会総会・懇親会運営費	0	令和4年度同窓会総会・懇親会運営方法の変更
	学生および同窓生活動支援費	600,000	1件あたり上限20万円
	緊急奨学金費	535,800	1年間1人分の学費として
	給付型特別奨学金費	2,000,000	令和4年度のみ予算 1件あたり10万円
事務費	役務費	400,000	郵送料、切手、はがき代、ホームページ管理費等
	印刷費	200,000	封筒印刷等
	消耗品費	1,100,000	同窓会名簿管理システム構築、ノートパソコン、事務用品、A4用紙、宛名シール等
	報償費	200,000	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
予備費	9,372,787		
支出合計	15,178,587		

※1:看護学部長
※2:看護学会名簿管理係兼

同窓会役員名簿(令和4年度)

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	中山洋子	16期生	文京学院大学大学院 特任教授
副会長	藤田佐和※ ¹	28期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美	27期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子	38期生・修士13期生・博士18期生	高知医療センター看護局
	山中福子	修士7期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里	46期生・修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	野田真由美	34期生	高知市保健所
	矢野智恵	38期生・修士1期生・博士17期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子	25期生・修士5期生	芸西病院看護部
	池添志乃	34期生・修士2期生・博士1期生	高知県立大学看護学部
	川本美香※ ²	修士13期生・博士18期生	高知県立大学看護学部

第48回 高知女子大学 看護学会の報告

令和4年7月16日(土)に、第48回高知女子大学看護学会が『看護におけるイノベーションの創出』をメインテーマとして、オンラインで開催されました。近年、医療技術や科学技術の進歩、人々の生き方の変化など、看護を取り巻く状況はますます多様化・複雑化しています。また、新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、我が国の経済や社会、人々の暮らしに大きな変化をもたらしており、私たち看護職者には新たな課題に立ち向かうための「イノベーションの創出」が求められています。これまで積み重ねてきた看護学の知や実践を基盤としながら、新たな価値の創造や変革への挑戦について皆様と共に考えたいと、メインテーマの下に講演とワークショップを企画しました。

当日は、卒業生・修了生をはじめ、県内外の医療福祉の関係者など、141名の皆様にご参加いただき、活気ある学術集会となりました。

講演

第48回高知女子大学看護学会

講師 松下博宣先生

看護における イノベーションの創出



午前の部では、東京情報大学看護学部 教授 松下博宣先生を講師にお迎えし、『看護におけるイノベーションの創出 ～遊び、まじめ、アイデアの異界越境から～』というテーマで、ご講演いただきました。松下先生は経営学、健康医療管理学、看護経営学、政策分析学、人間生態学、ヘルスケア・イノベーション、システム科学、インフォマティクスといった多彩な分野を渉猟してこられた先生です。

ご講演の中では、イノベーションの源泉とは「異質なものの新しい組み合わせ」であり、異なるモノコト、アイデアの組み合わせがイノベーションの契機をもたらすこと、ヘルスケアの世界では多様なイノベーションが創出されており、イノベーション生態系のどこに自分の居場所を創るのが問われていること、イノベーションの契機は不真面目な遊びであり、自由闊達なアイデアや、まずはトライして、ダメならばやり直すという“仮説思考”が重要であることなどをお話いただきました。また、ご自身の経験も踏まえて、イノベーションを創出していくには、専門分野などを異界越境してマジメに遊ぶことや、異質な人材のコラボレーション、多様なアイデアを足し合わせ、掛け合わせ、組み合わせ、編み合わせ、混ぜ合わせることの大切さなどを教えていただきました。

講演に関するアンケートでは、「自分自身や組織でイノベーションを起こしたくなる内容だった」「看護の可能性の拡がりを感じる講義だった」などの感想が寄せられました。また、看護におけるイノベーションについて、「不確かな状況を楽しみながら課題解決に向かえる能力、変化する自分や周りを楽しむ余裕、その余裕を許容する文化も大切」「多様な背景の患者・家族、他職種でコラボレーションしながら実践を重ねることで、イノベーションが実現されていく面白さにつながっていく」「自由に雑談などの時間を得ながら、イノベーションを楽しむ余裕をもつ必要がある」「真面目すぎる自分に気づいた」などのご感想をいただき、イノベーションに挑戦してみようという意欲や勇気につながったことがうかがえました。

互いの多様な価値観を持ち寄り、コラボレーションしていくこと、そのためにも楽しみながら雑談を取り入れていくことの必要性や、日々の実践がイノベーションにつながっていくことへの気づきなど、私たちの認識や思考が刺激され、イノベーションに向けた気持ちの高まりを感じた一日となりました。

ワークショップ

ワークショップ2の配信の様子



ワークショップ4の配信の様子

午後の部では、看護のイノベーションの視点から5つのワークショップを開催し、109名の参加がありました。テーマに沿ってそれぞれの場でのイノベーションの実践例を話題提供者からお話しいただき、参加者との活発な意見交換が行われました。様々な挑戦に触れ、刺激を受けたり、新たな知の創造を考える機会となりました。

○ワークショップ1：看護におけるイノベーション –AIを活用した看護記録–

話題提供者 藤野智子(聖マリアンナ医科大学病院 急性・重症患者看護専門看護師)

コーディネーター 原田千枝(高知大学医学部附属病院) 木下真里(高知県立大学)

○ワークショップ2：関係性が脆弱な家族への関わりを通して考えるケアのイノベーション

話題提供者 松下由香(高知医療センター 家族支援専門看護師)

田淵良枝(高知医療センター 不妊症看護認定看護師)

コーディネーター 池添志乃(高知県立大学)

○ワークショップ3：本人・家族・支援者が共につくり出すイノベーション –本人の思いを尊重した「その人らしさ」

話題提供者 島田いづみ(帝京大学医学部附属病院 がん看護専門看護師)

弘末美佐(高知大学医学部附属病院 がん看護専門看護師)

コーディネーター 吉田亜紀子(高知学園短期大学) 有田直子(高知県立大学)

○ワークショップ4：医療ニーズの高い療養児・者の在宅療養支援におけるイノベーション

話題提供者 二宮園美(神戸訪問看護ステーション 在宅看護専門看護師)

安岡しずか(高知中央訪問看護ステーション 在宅看護専門看護師)

コーディネーター 大黒美渚(高知市健康福祉部) 森下幸子(高知県立大学)

○ワークショップ5：将来を見据えた卒業生のキャリアデザイン –自分イノベーション–

話題提供者 町田友里(高知県立大学看護学研究科) 高橋咲季(高知県健康政策部)

下村幸(JICA海外協力隊) 栗栖やすか(松江市立皆美が丘女子高等学校)

コーディネーター 田之頭恵里(高知県立大学) 中井美喜子(高知県立大学)

総会

同日、12時10分からオンラインにて総会が開催され、学会員49名が参加しました。議長には学部49期生の長戸和子氏が選出され、議題にそって進行されました。審議事項1では、運営委員の欠員に伴う補充案について審議され、新たに3名の委員の加入が承認されました。

報告承認事項では、令和3年度事業報告(運営委員会、企画委員会、編集委員会、広報・渉外委員会、所属組織についての活動報告)、令和3年度会計決算報告、監査報告がなされ、いずれも承認されました。

また、審議事項2では、奨学生の選考案、令和4年度事業計画案(企画委員会、編集委員会、広報・渉外委員会事業計画案)、令和4年度予算案について審議され、承認されました。

看護開発研究会

看護開発研究会は、高知県立大学看護学部同窓会大学院部会の活動として、2015年度より毎年、高知女子大学看護学会の翌日に開催しています。本年度もCOVID-19流行下のため、対面で一堂に会するというわけにはいきませんが、学会翌日の7月17日(日)に、Zoomを活用したWeb開催で『看護開発研究会2022』を行いました。今回は、【シンポジウム】と【演題発表】の2部構成といたしました。

【シンポジウム】

研究者として社会に還元できる知をいかに創出し、その結果をいかに発展させたり、教育や実践に活かして循環させていくかを検討することを目的に、『博士論文を基盤にした知の発展と循環』をテーマとしました。本学の博士後期課程を修了された3名のシンポジストの方々より、博士論文を基盤にして得られた成果をさらなる研究へと、どのように発展させ、社会に還元しておられるのかについてご講演いただきました。

岩本真紀氏(博士後期課程11期生)は、がんサバイバーのストレンスを明らかにした博士論文の成果を活用して、ストレンスモデルを基盤とする看護援助方法の開発や、ストレンス概念がもつ潜在的な力に着目して、がんサバイバー自身が気づいていないストレンスを明らかにする質的研究へと発展させておられました。さらに、知の活用を行う中で、対象者が潜在的にもつストレンスを可視化する必要性に気づき、測定尺度開発に取り組むというように、さらなる知の創出へとつなげておられました。

越智百枝氏(博士後期課程6期生)は、アルコール依存症者のキーパーソンである家族のターニングポイントを明らかにした博士論文の成果を活かし、家族支援プログラムの開発へと発展させておられました。そして、さらなる知の活用として、支援者育成に向けた研究や社会活動につなげるといように、新たな知の創出と循環を行っておられました。

藤田冬子氏(博士後期課程5期生)は、博士論文で開発した家族介護者のためのエンハンスメントプログラムを基盤に、介護領域案を追加し作成したプログラムから、ファシリテーター養成のためのプログラム開発、評価研究、在宅移行支援への活用・評価研究、そして、e-learningのプログラム開発へと知の創出と循環を継続させておられました。

このような3つの異なる研究の発展のあり様をご紹介いただき、研究—実践—教育を連動させながら、知を発展させていくための研究者としての方略などについて参加者の方々との意見交換を行い、充実した約30分のディスカッションとなりました。

【演題発表会】

テーマは、例年と同様に『博士論文における研究方法の開発—研究上の困難や課題と工夫』とし、2名の修了生の方にご発表いただきました。

青木早苗氏(博士後期課程15期生)からは「質的研究における課題と工夫」として、「遺伝性乳がん卵巣がん症候群である乳がん女性のセルフ・トランセンデンス」を明らかにする研究に取り組んだ動機、焦点を当てた“遺伝リスク”や“セルフ・トランセンデンス”を引き出していく難しさ、研究協力者の設定における課題と対応、国際ジャーナルへの投稿における戦略などについてお話しいただきました。セクシュアリティを扱った研究に携わってこられた知識や経験を活かしながら、“セルフ・トランセンデンス”という新しい概念の本質を粘り強く探求し続ける研究者としての姿勢も教えていただきました。



伏見木綿子氏(博士課程4期生)からは「量的研究における課題と工夫」として、「福島第一原子力発電所事故による放射線災害がもたらした住環境およびその後被災者が変化させた住環境と健康に対する考え方の基盤の関連」に関する研究に取り組んだ動機、環境という概念の操作化、統計解析を行う際のポイントなどをお話しいただきました。分析を繰り返すことで分析ツールや手法に馴染むことや、量的研究においても得られたデータとじっくり向き合い、“数値”が語りかけてくることに仮説を立てながら読み取っていくことの大切さなどを教えていただきました。

発表後には、ご参加いただいた皆様方とのディスカッションを通して、研究者としての倫理的感受性をさらに高めながら、研究課題に向き合い、新たな知を創造していく意義や重要性を学ぶことができ、有意義な時間となりました。

次年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

高知県立大学看護学部同窓会 大学院部会
看護開発研究会 2022

【開催日時】 2022年7月17日(日)9時~12時30分
【会場】 Web開催(Zoomミーティング) ※参加費無料

【プログラム】
開会のあいさつ 9時00分
シンポジウム 9時45分
『博士論文を基盤にした知の発展と循環』
岩本 真紀 氏 香川県立保健医療大学保健医療学部 准教授
越智 百枝 氏 愛媛県立保健医療大学保健医療学部 教授
藤田 冬子 氏 神戸女子大学看護学部 教授

演題発表 11時00分~12時30分
『博士論文における研究方法の開発—研究上の困難や課題と工夫』
青木 早苗 氏 「質的研究における課題と工夫」
伏見木綿子氏 「量的研究における課題と工夫」

研究会 大学院部会では、毎年、高知女子大学看護学会の翌日に看護学研究科の修了生・在学生を対象に、研究会を開催しております。今年もWeb開催とし、学術的な学びと交流・ネットワークづくりの場として本会会費を計画しました。ご参加いただき、種々に御縁をたい、有意義な時間を共有できれば幸いです。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

【参加申込方法】
・右記のQRコード、または、下記URLよりご登録ください。
<https://forms.gle/W3J8F38a2g2G68>

主催 高知女子大学同窓会(高知女子大学看護学部)

ようこそ先輩！

宮内 美紀子さん（16期生）



私達16期生は、卒業後52年を過ぎ、後期高齢者となりました。級友の多くが職業生活を終え、最近の話題は、医療を受ける側としての困難や悩みになっています。立場を変えてみえた世界は、まるで違っていました。病人の家族になったり、自分が病気になって、初めて分かることが多くありました。

私は、高齢の両親が介護を必要とする状態になったのを機に、職業生活を終わりました。病院での看護・介護の限界は、提供する立場としてよくわかっていましたし、親が入院中に受けた対応には、不適切ではと思われるものもあり、両親の希望に添い、できる限り自宅で介護しよう、徹底的に両親に付き合おうと心に決めました。山崎智子先生が、ご家族の介護をされていた時、医療・看護の理想と現実とのギャップを語りながら、『貴方、本当に大事な人は、自分で看なければ駄目よ』と、繰り返し仰っていたのが思い出されます。

在宅介護は、台風が来るとなれば、停電への備え、酸素療法機器の電源や酸素ボンベの残量が気にかかり、休日には急変への対応が心配、いつも綱渡りをしているような緊張感があり、私の体力がいつまで続くかも心配でした。少しでも楽しんで欲しくて、思い出を飽きず語り合い、庭に母の好きな花を植え、母は俳句を詠みました。俳句の中には私もいました。介護者としても娘としても充実した豊かな日々、宝物のような愛おしい時間でした。両親を自宅で看取り、14年余の介護生活を終えて、2年が過ぎようとしています。

介護は始まった時から、終着点が死だということを自覚し覚悟していましたが、自然な死へのプロセスに対する知識と経験不足を痛感しました。少しでも楽に過ごさせる方法はないかと、必死に知識を求め工夫をしました。“最期に向き合う”というのは、傍でただ見守ることしかできないのだとも知りました。親の介護は、看護師であった私自身が、一番したい事、出来る事であったから、そして看護師であったから、介護生活を少し客観視したり面白がったりする視点をもつことができ、続けられたのだと今思います。

行き詰った時、言葉以上に状況を察し、さりげなく支えてくれたのは、級友達でした。卒後半世紀以上が過ぎ、乗り越えてきた確実な年月を認め合いながら、今また新たな関係が続いている状況は、卒業時には思いもしませんでした。続けると良いと願っています。

看護の場は多様、働き方も多様！

田代 真理さん（学部 41期生 修士4期生 博士16期生）



思い返せば、私の看護学の学び舎は学部、大学院修士、博士とすべて高知女子大学(博士は高知県立大学)です。いつも卒業・修了時点では、達成感と同時に、大変な記憶もよみがえり、二度と足を踏み入れることはないだろうと思っていました。しかし、しばらく経つと仕事の悩みを相談に行ったり、アカデミックな刺激を求めて磁石のように引き寄せられています。それは高知女子大学が長い歴史を持ち、お世話になった先生が大学を訪れば温かく迎えてくださる安心感、全国にいる同じ看護教育を受けた同窓の方々とのつながりや連帯感など、高知女子大学の文化を感じられるからだと思います。

私は平成7年に学部を卒業後、大阪府立病院(現大阪急性期・総合医療センター)で勤務しました。その時、看護学生実習の指導教員が高知女子大学の先輩で、色々とお話をさせて頂くなかで、修士課程進学へのきっかけを得ました。修士課程修了後は、訪問看護のパイオニアの一人である村松静子先生の日本在宅看護システム・在宅看護研究センターに就職し、訪問看護をしながらがん看護CNSを取得しました。多くのがん療養者・家族の方々に訪問看護させて頂き、看護の奥深さ、連携調整の難しさなどを感じたものです。また、保険制度では担えない旅行付き添い看護など自費の看護も経験しました。その後、聖路加看護大学に就職し、認定看護師教育課程(訪問看護)などの生涯教育に携わりました。しかし、現場の訪問看護師の研修生と関わる中で、自分自身でも実践がしなくなってしまいました。また、在宅の様々な場所で経験を積みみたいという思いもあり、その後、在宅療養支援診療所さくらクリニックやJCHO東京新宿メディカルセンターの訪問看護ステーションで働きました。そして自分の今後のキャリア形成について悩んでいるときに、藤田佐和先生に相談させて頂き、高知県立大学の博士課程に進学し「ACP」について研究しました。

現在は、聖路加国際大学教育センターで非常勤教員として認定看護師教育に関わりながら、悠翔会在宅クリニック新橋で訪問診療看護師として非常勤で働いています。ワークライフバランスをとりながら実践・教育・研究ができないかと模索中です。キャリア選択において、また全国の同窓の方々の多様な働き方を教えていただきたいと思っています。

同窓会による学生・卒業生活動支援

日本災害看護学会 第24回年次大会

高知県立大学看護学部 竹崎久美子(大会長)

日本災害看護学会は、1995年の阪神淡路大震災をきっかけとして、「災害看護に関する知識体系を確立する」「活動体制及び方法を開発する」「災害看護学としての教育プログラム体系を確立する」「国際的研究ネットワークを開発する」などの諸課題に体系的に取り組むため、本同窓会初代会長でもある南裕子先生を中心として設立された全国学会です。高知での開催は、2004年山田覚先生が「連携」をテーマとして大会長をされた第6回大会以来となりました。

本大会の開催にあたっては、看護学部同窓会より講演集への広告掲載のご支援を賜り、誠に有難うございました。講演集は学会通巻号ですので、学会員1,300余名、並びに定期購読されている全国約80か所の図書館で保管され、卒業生や災害看護に関心を持つ方々の目に留まることと思います。また参加登録、演題発表、指定演者のご登壇に至るまで、多くの同窓生に運営上のご支援をいただきましたことにも、大変心強く、心から感謝申し上げます。

第24回では、「今、改めて準備期の災害看護を考える—住み続けられるしくみづくりのために—」をテーマとしました。南海トラフ地震に向けて県民一丸となって取り組んでいる本県の備えの活動を紹介すると共に、演題発表でも、76題中37題が全国で進められている組織や地域を巻き込んだ「備え」に関する活動報告でした。災害看護は、過去の様々な災害からの学びを糧に、準備期の備えと持続可能な地域づくり、組織づくりを考える時代に入ったことを、改めて実感することができました。

また今回の年次大会は、2019年から始まった新型コロナウイルス感染拡大の中でも、最大の感染者数を記録する8月第7波の渦中に会期が始まりました。保健医療福祉の現場で、まさに感染症災害と闘っている方々に参加いただく学会だけに、2月の第6波の時点で全面的なオンライン開催を決め、教育講演、シンポジウムにもCOVID-19に関する企画を盛り込みました。参加者それぞれが安心な環境で、自分の時間とペースで視聴できるオンデマンド開催の強みが最大限に生かされたと感じます。お陰様で最終参加登録者は780名と、目標参加者数を達成することができました。

本大会ではさらに新たな試みとして、看護基礎教育在学中の学生による交流集会を、学生さん達自身に企画してもらいました。企画者は本学看護学部の災害に関連した3つのサークルの代表です。立志社中設立の原動力ともなった「イケあい学生災害ボランティアセンター」の福田さん、日本集団災害医学会学生部会(日本DMAS)に刺激を受けてサークルを立ちあげられた「SIT」の石津さん、そして「UOK手話サークル」の徳永さんです。その他、本学の立志社中「健援隊」、高知大学、高知工科大学、日本赤十字豊田看護大学、岩手大学、日本DMASからそれぞれ動画紹介の応援参加がありました。次の時代を担う若い世代の人たちにも、これからももっともっと参加してもらえる学会となることを願っています。



ライブ配信当日のオペレーションルーム(9月3日県民文化ホール多目的室)

第24回日本母性看護学会学術集会

第24回日本母性看護学会学術集会(大会長:大阪医科薬科大学看護学部教授佐々木綾子)は、2022年6月26日(日)大阪医科薬科大学看護学部講堂よりライブ配信および7月中オンデマンド配信にて開催し、全国から1019名の参加がありました。メインテーマは「パンデミックからのメッセージ～母性看護へのヒント～」とし、メディアでもご活躍の先生方にご講演いただきました。開催にあたり、同窓会から学術集会抄録集への広告協賛をいただくことができ、大変うれしく思っております。また多くの同窓生の皆様にご参加いただき、本学術集会を開催できましたこと、心より感謝申し上げます。

大会長 佐々木綾子

第24回 Japan Society of Maternity Nursing 日本母性看護学会学術集会
 (テーマ) パンデミックからのメッセージ～母性看護へのヒント～
 開催日 2022年6月26日(日)
 WEB開催
 開催方法 WEB開催
 配信期間 6月26日(日) 7月1日(金)～7月31日(日)
 (7月1日～7月31日)
 (7月1日～7月31日)
 大会長 佐々木綾子
 (大阪医科薬科大学看護学部教授)

講演者	講演題目
大竹文雄	「産婦人科看護から見たパンデミックからのメッセージ～母性看護へのヒント～」
谷本道哉	「筋肉体操で活躍の順天堂大学 谷本道哉先生より「今からでも間に合う100歳まで歩ける体力づくり-コロナ禍の人々への影響とサポート」について実演をまじえご講演いただきました。」
荻田和秀	「りんくう総合医療センター周産期センター 荻田和秀先生より「動物の子育てから見た児童虐待-社会的リスクを抱えた妊婦を見守るヒント」についてご講演いただきました。」
明和政子	「発達科学の視点から、今こそ人の育ちにとって大切なこと」についてご講演いただきました。」

学術集会事務局: 大阪医科薬科大学看護学部内 100-0266 大阪府堺市東区西成7-6
 E-mail: jsmn@med.nippon-med.ac.jp
 URL: http://www.nippon-med.ac.jp/jsmn/



会長講演: 「パンデミックからのメッセージと母性看護」の様子



教育講演1: 筋肉体操でご活躍の順天堂大学 谷本道哉先生より「今からでも間に合う100歳まで歩ける体力づくり-コロナ禍の人々への影響とサポート」について実演をまじえご講演いただきました。



特別講演1: 大阪大学 大竹文雄先生より「妊産婦の保健指導に役立つ-行動経済学からみたコロナ禍の人々への影響と行動変容支援-」についてご講演いただきました。



特別講演2: りんくう総合医療センター周産期センター 荻田和秀先生より「動物の子育てから見た児童虐待-社会的リスクを抱えた妊婦を見守るヒント」についてご講演いただきました。



シンポジウム: 助産所、保健センター、総合周産期母子医療センターそれぞれの立場の看護職から「パンデミックの母子・家族への影響と新たな支援」についてご講演後、意見交換が行われました。



教育講演2: 京都大学 明和政子先生より「発達科学の視点から、今こそ人の育ちにとって大切なこと」についてご講演いただきました。

先輩の職場は今

高知医療センター

私は、高知女子大学家政学部看護学科を45期生として卒業後、大阪の病院で4年間勤務し高知に帰ってきました。高知医療センター入職後、NICU、整形外科フロア、看護局教育担当での経験を経て、2021年4月より小児フロア部署責任者として26名の看護スタッフとともに、感染症、慢性疾患、悪性腫瘍、NICU・GCU退院後の教育入院や医療的ケアが必要な子ども、手術を受ける子どもとご家族の看護を行っています。子どもが主体的に治療に臨めるよう、入院生活が子どもにとって苦痛な体験ではなく、成長につながるように、専門職が協力し子どもに合わせた説明や環境調整に取り組んでいます。入院生活の中で経験したたくさんの方に対して「頑張れた」と思うことができるように日々の支援を行っています。また、退院後も継続した治療や処置が必要な場合や病気について周囲の理解を必要とする場合など、子どもと家族と話し合いながら、保育園や幼稚園、学校への復学支援に取り組んでいます。

コロナ禍において、感染予防の観点から「入院中を通し付き添い家族は1名のみ」「面会禁止」などの制限を設けています。子どもが退院まで家族に会えない状況や、付き添いの交代ができない家族の精神的、身体的負担が大きい状況の中、子どもやその家族が安心して入院生活を送れるよう病棟保育士や臨床心理士など多職種と協働しながら日々の関わりを行っています。このコロナ禍において、小児フロアスタッフもまた、感染から子どもを守ること、自分自身を守ることというストレスを常に感じながら勤務していますが、子どもの頑張る力や、回復・成長していく姿、笑顔にパワーをもらいながら頑張っています。

大学時代、対象者の最善が何かを根拠をもって考え実践すること、自分の考えをしっかりと伝えること、仲間の考えを聴くこと、学びを共有し次に繋げることが大切であることを学び、実践しました。その経験や学びが看護管理者としてのマネジメントにも活かされていると感じます。まだまだ、看護管理者として未熟ではありますが、フロアスタッフや多職種と協力し安全で質の高い医療、看護実践に尽力したいと考えます。

(藤本真紀さん)



<写真> 小児フロアでは8名の卒業生が勤務しています。

写真左から藤本真紀さん、前田若菜さん、門屋里彩さん、高橋愛実さん

近森リハビリテーション病院

近森リハビリテーション病院は、全180床が回復期リハビリテーション(以下、回復期リハ)病棟の病院です。1989年に開設され、2015年には江の口川を渡って南側に新築移転しました(ボーリング場の跡地です)。「患者さんがどのような障害があっても、住み慣れたところでその人らしく安心して生活できるように適切なリハビリテーション医療サービスを提供する」という理念のもと、多職種が協働し患者さん・ご家族の支援を行っています。当院は、高知県で最も多くの回復期リハ病床を有しており、主に脳卒中や頭部外傷、脊髄損傷などの患者さんを、昨年は新規患者630名受け入れました。これだけ多くの患者さんの支援における課題の一つが、回復期リハ病棟の大きな役割である自宅退院への支援です。2020年から現在も続く新型コロナウイルス感染症の流行により、多くの患者さんが入院生活に制限を受け、ご家族もストレスや不安を抱えています。入院期間が最長6か月という長い入院生活を送る患者さんとそのご家族をどのように支えていくか、面会や外出・外泊もできない中で、患者さんの状態(障害を含む機能や精神状態など)をそばで見て・感じて、生活について考えて・体験して、共に進んでいくというプロセスをふむことに制限がある状況をどのように解決していくのか、日々、悩み考え、回復期リハ看護を実践しています。また、この原稿を書いている8月は新型コロナウイルス感染症第7波で医療現場はひっ迫した状況にあります。当院でもコロナウイルス感染症陽性患者を受け入れ、コロナウイルス感染症後廃用症候群に対するリハビリ加療を実践するなど、地域における当院の役割をその時々で考え、できるかぎりの医療の提供に取り組んでいます。

現在、働いている高知県立大学の卒業生は3名。教育担当、病棟主任、そして私は、地域連携・システム・外来担当として、それぞれの役割を担っています。卒業して24年目。リハビリテーション看護という書籍すらほとんど見当たらない時代から20年以上が経過し、医療における回復期リハ病棟が位置づけられ、現在は回復期リハ看護について語り合う仲間が院内にとどまらず、全国にいます。まだまだ発展中の回復期リハ看護。「その人らしく生活するための支援」について、患者さん・ご家族やスタッフ、地域の支援者など様々な方々と考え、共に進んでいきたいと思えます。(内海美枝さん)



<写真> 左から 中村里江さん、岡部美枝(旧姓内海)さん、畠中麻衣さん

看護学部は今

SIT 災害看護学生チーム

看護学部2回生 松下純子さん

SIT 災害看護学生チームは災害看護について学んでいるサークルです。SITは、将来災害看護に携わることを目指す学生はもちろん、多くの学生が災害に関する知識を持ち、向き合うことができる人を増やしたいと考え、2021年3月に結成されました。今年SITの活動が始まって2年目になります。4月にはSITの運営を先輩から現2年生に引き継がれ、去年の活動より劣らないようにしなくてはというプレッシャーを感じながら頑張っています。しかし、幸いなことに今年度も多くの新入生に参加してもらうことができ、現在34名で活動を行っています。

SITの活動は「災害医療・災害看護の知識や技術を習得するための勉強会」と「より多くの人に災害看護について知ってもらうためのイベント」という2本の柱があります。1つ目の勉強会は2週間に1回、学内でっており、モデル人形を使ってより実践に近いトリアージについて学んだり、グループワークをしながら避難所の運営について考えたりしています。2つ目のイベントでは、昨年、ワークショップを開催しました。

ワークショップでは四国の大学生や専門学校生を対象に、SITのメンバーが災害医療の基礎的な知識について講義を行いました。私は、このワークショップで初めて講義を担当することになりとても緊張しましたが、伝え方を工夫しながら災害医療の知識を深めるきっかけになったと実感しています。今年度は秋に開催される高知県立大学の文化祭でSITのブースを作る予定です。

これからもより多くの人と災害医療について学び、いろいろな視点から災害医療について理解を深めていきたいと思います。



高知県立大学&インドネシアガジャマダ大学のオンライン看護学生交流プログラム Nursing Student's Exchange Program on line between UGM & UoK



Online Exchange Program UGM - University of Kochi, Japan

Wednesday, 23 March 2022
13.00-14.40 Western Indonesian Time/
15.00-16.40 JST

Agenda	Duration	Time
Opening remarks	3'	13.00-13.03
Self-introduction and ice breaking	15'	13.03-13.18
Introduction of each university and towns, Students presentation (4 UoK - 2 UGM) - 10 mins each	60'	13.18-14.18
Intercultural Understanding (small group discussion)	20'	14.18-14.38
Closing remarks	2'	14.38-14.40

Join Zoom Meeting Directly
<https://bit.ly/UGMUOK>
OR
Meeting ID: 826 9842 1840
Password: 756683

UNIVERSITAS GADJAH MADA - UNIVERSITY OF KOCHI



2022年3月23日に国際交流協定校であるインドネシア国立ガジャマダ大学の看護学生と本学看護学部学生のオンライン交流会を開催しました。本学からは10名、ガジャマダ大学からは40名が参加しました。

本学学生は「異文化理解看護フィールドワーク」を受講した学生の中から、2回生4名がパワーポイントを使って英語でのプレゼンテーションを行いました。テーマはそれぞれの学生が興味ある課題で、

- ・ Medical care in Kochi 高知県の医療体制 萩野遙さん
- ・ A natural disaster in Japan 日本の自然災害 福田菜々子さん
- ・ Support system for pregnant and child 妊娠・子育て支援制度 藤原萌衣さん
- ・ Why do Japanese people live longer? 日本人の長寿の秘訣 柳橋彩音さん

でした。ガジャマダ大学の学生さんは、「インドネシアにおける若年での妊娠の現状と課題」「インドネシアの医療保険制度」について発表して下さい、それぞれについて、質疑応答がありました。

また、ゲストスピーカーとして2022年3月に本学大学院博士課程を修了したチャンドラさん(インドネシア大学)が「日本の大学院に進学する意義」について話をして下さいました。その後、ブレイクルームに分かれて「COVID-19下の生活」について、グループディスカッションを行い、交流を深めることができました。国際交流委員会では今後も様々な形で交流を継続していきたいと思います。

ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。
誠にありがとうございました。
(敬称略 令和4年9月29日現在)

西山 純子様(33期生)
岡本 眞知子様(22期生)
浦本 潮美様(41期生・修士2期生)
北川 里佐子様(27期生)
山田 薫様(26期生)
吉村 利津子様(修士7期生)
福岡 恵美子様(5期生)
野田 真由美様(34期生)
福永 佳子様(7期生)
鈴木 孝枝様(2期生)
その他3名の方

看護学部・看護学研究科の活動

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに卒業生、修了生、また地域の専門職者の方々との学びを共有する場として看護相談室を開催しています。

今年度の予定が決定しています。
ぜひ、ご参加ください。
高知県立大学のホームページにも詳細が記載されていますので、ご覧下さい。



看護相談室

看護相談室は、12の専門領域が、高知県の保健・医療・福祉に従事する皆様方と共に、ケアの質を向上させることを目的としています。

家族看護学	* 長戸研究室 ☎ 088-847-8708 I. ケア検討会 未定 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 5/20 (金), 6/17 (金), 7/15 (金), 10/21 (金), 11/18 (金), 12/16 (金), 1/20 (金), 2/17 (金) 18:30~20:30
精神看護学	* 田井研究室 ☎ 088-847-8723 I. ケア検討会 6/16 (木), 9月未定, 12/15 (木), 3/16 (木) 19:00~21:00 II. 交流会 中止 III. リカレント教育 6/18 (土) (西部地区研修会)
がん看護学	* 藤田研究室 ☎ 088-847-8704 I. ケア検討会 8/27 (土) 2/4 (土) 13:00~15:00 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定
クリティカルケア看護学	* 大川研究室 ☎ 088-847-8703 I. ケア検討会 6/4 (土), 10/8 (土) 13:00~15:00 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 7/22 (金)
慢性看護学	* 内田研究室 ☎ 088-847-8720 I. ケア検討会 7/30 (土), 2/10 (金) II. 交流会 7/30 (土) III. リカレント教育 7/30 (土)
小児看護学	* 中野研究室 ☎ 088-847-8710 I. ケア検討会 (大学院特別講義) 9月, 11月, 2月 *開催時期・内容は変更になる可能性があります II. 交流会 未定 IV. その他 赤ちゃん同窓会 10月頃
母性・助産看護学	* 渡邊研究室 ☎ 088-847-8719 I. ケア検討会 6/1 (水), 11/18 (金) 18:30~ II. 交流会 6/1 (水) 卒後1~3年目対象 III. リカレント教育 未定
地域看護学	* 小澤研究室 ☎ 088-847-8722 I. ケア検討会 6/10 (金), 8/2 (火), 11/4 (金), 12/16 (金) III. リカレント教育 5/13 (金), 7/29 (金), 12/13 (火), 2/10 (金), 3月
在宅看護学	* 森下研究室 ☎ 088-847-8709 I. ケア検討会 11/17 (木)・2/16 (木) 18:30~20:30 II. 交流会 (Web・修了生対象) 8/26 (金) 18:30~20:30
老人看護学	* 竹崎研究室 ☎ 088-847-8705 I. ケア検討会 6/14 (火), 11/8 (火) II. 交流会 未定 III. リカレント教育 2/10 (金)
看護管理学	* 久保田研究室 ☎ 088-847-8714 I. ケア検討会 6/17 (金), 10/14 (金) 18:00~20:30 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定
災害・国際看護学	* 山田研究室 ☎ 088-847-8716 I. ケア検討会 6/23 (木)・11/17 (木) 18:30~20:00 II. 交流会 未定 III. リカレント教育 未定

寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



編集後記
同窓会会報は、同窓生の皆さまのご支援・ご協力のおかげで第25号の発行となりました。
今年度も、同窓会総会は書面開催となり、懇親会も中止となりました。同窓生の皆様には、総会の書面開催にご協力いただきまして、本当にありがとうございます。
看護学部では、対面授業や臨地実習といった日常が戻ってきていますが、コロナ禍で変化したり、新しくなった授業方法や大学生活などが日常になりつつあることも多く感じます。来年こそは、総会・懇親会が開催できるような世の中になっっていることを願っています。
池添・川本・西内
表紙・北川村モネの庭のスイレン

事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部
Fax: 088-847-8750

ホームページアドレス

高知県立大学
<http://www.u-kochi.ac.jp/>
高知県立大学看護学部
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

